

平成 29 年 3 月 24 日

◎湯島小学校・教育センター合同防災訓練

南街・桜が丘地域防災協議会 本部

当防災協議会と親交のあるSYM三町会災害連合会以下20数町会や、文京区・文京社協・消防署・警察署・湯島小 PTA・内閣府・東京都総合防災部・世銀東京防災ハブなどが関与して、6区域に分かれ400名ほどが参加した、文京区湯島の首記防災避難訓練が開催されました。その訓練の一面に東大和社協と共に当防災協議会として参加しましたので、ご報告致します。

3. で実際に参加した新花地区の、4. でその後の全体訓練を記述致します。

記

1. 日時 平成29年3月18日(土) 9時～12時
2. 場所 文京区湯島
3. 新花地区(SYM三町会災害連合会所属)の訓練

(1)概要

要救助者5パターン(下記(2)①～⑤)の被災状況設定と救助進行シナリオがあらかじめ用意され、シナリオを作成した油谷誠至氏(「飛べダコタ」などを制作した映画監督)の助言の下、4～6名程度のグループによる救出・救助・応急処置・搬送訓練が行われました。

(2) 訓練内容

①(場所)マンション3階の廊下

(設定)頭部裂傷・意識不明の30代母親と、その子供(6歳女兒)





母親を応急手当の後、東都病院にリヤカーで搬送しトリアージ。



母親役の松下区議と、みごとな演技で臨場感と緊迫感をだしてくれた上田帆乃佳ちゃん(劇団ひまわり所属)。

②(場所)個人宅

(設定)重度の認知症70歳女性



居間で「助けて」と叫ぶ、タンスの下敷きになった老女を、安否確認中の地元有志が発見。



表に連れ出そうとするが、本人はそれを拒否しむずがる。



足首を捻挫しているようだが、逃走しようとして転倒し歩行困難に。



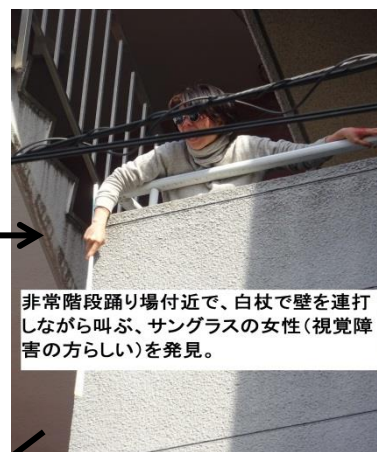
応援の救助員(東大和市社会福祉協議会参加)も加わり、なんとかなだめて車椅子に乗せ、救護所に搬送。

③(場所)マンション非常階段3階の踊り場

(設定)視覚障害の40歳女性



安否確認中の地元有志が、マンションの非常階段付近で、助けを求める女性の声を聞きつける。



非常階段踊り場付近で、白杖で壁を連打しながら叫ぶ、サングラスの女性(視覚障害の方らしい)を発見。



左肩を強打して左手が動かない模様で、本人を勇気づけながら地上まで誘導し、車椅子に乗せて、救護所に搬送。



④(場所)集会所の2階 (設定)肢体不自由の80歳男性



⑤(場所)駐車場のワゴン車の中 (設定)額から血を流した自閉症50歳の男性





(3)新花地区の防災本部と所有器具



無線による要救助者発見や、救助
応援要請がなされました。



(4)被災状況を東大和市に中継し、応援要請を発信

SYM三町会災害連合会高山会長が、アイパッドのFaceTimeで東大和の当防災協議会岡田副本部長とテレビ電話として交信。被災の映像を東大和市社会福祉協議会(東大和災害ボランティアセンター)で放映。



(5)SYM本部

新花地区以下3町会を統括するSYM本部では、無線による被災状況の確認や応援要請と、アイパッドのFaceTime で送られてきた被災場所の映像を、「ゲームのハングアウト」の6分割画面でリアルタイムに放映、録画も行う。



(6)新花地区の訓練に参加して

(2)④を除き、要救助者役には、プロの役者さんが投入されましたが、その迫真の立ち振る舞いには、驚きと新鮮な感覚を受けました。臨場感のあふれた訓練になったと思います。

振る舞いの前提には、要救助者がパニックであるいは身体障害やけがなどで、救助を拒絶あるいは救助困難という設定があり、救助者がいかに説得や工夫をして被災場所から連れ出し、応急手当をし、救護所に搬送するかの技量が問われました。

4. 合同防災訓練全体

(1)新花地区での訓練の後、避難所の1つである湯島小学校に参集しました。



(2)その後もう1つの避難所である教育センターに移動し、反省会が行われ、参加賞と炊き出しがふるまわれました。

①教育センターに集合



教育センター受付



②反省会



SYM三町会災害連合会 高山会長の総括

③参加者への振る舞い



炊き出しによる、カレーを食べる訓練参加者



参加賞

以上